

バイオリファイナリー技術の開発に取り組む研究所で、 再生可能エネルギー100%の電力を利用開始

バイオマスを原料としたグリーン化学品の開発・事業化を行う Green Earth Institute 株式会社（代表取締役 CEO 伊原智人）は、Green Earth 研究所において、再生可能エネルギー100%電力の利用を開始しました。利用する再エネ 100%の電力は、みんな電力株式会社を通じて供給されます。

1. 再生可能エネルギー導入の背景

当社は、“グリーンテクノロジーを育み、地球と共に歩む”をミッションとして、これまで石油で作られていた化学品を微生物の力を使ってバイオマスから作る研究開発に取り組んでいます。今回、その研究開発の拠点である Green Earth 研究所で使う電気を再生可能エネルギーにすることで、研究開発活動自体が、地球の抱える問題への解決に貢献するようにしたいと考えました。

2. 概要

2014年に設立した Green Earth 研究所は、バイオリファイナリー技術の実用化に取り組む研究開発拠点です。2016年にはアミノ酸の生産に成功しました。

今回、本研究所は、みんな電力が提供する「ENECT RE100 プラン」に切り替え、再エネ 100%の電力の利用を開始しました。みんな電力は、企業の気候変動対策などに関する情報開示・評価プログラムである CDP の認定を受けた再エネ供給事業者で、グローバル基準の再エネ調達基準を満たしています。



当社は石油を原料としないグリーン化学品の開発・事業化などを通じて地球環境問題の解決に取り組むとともに、研究活動や事業活動のプロセスにおいてもゼロエミッション化を目指して再エネ利用を進めていきます。

■みんな電力株式会社について

大手印刷会社で新規事業を担当していた大石英司が、再生可能エネルギー事業会社として 2011 年に設立。2016 年に発電者と生活者をつなぐ電力小売りサービス「顔の見える電力™」を始めるなど、「納得感を持って選択する」という体験の提供にこだわり、2020 年には清潔な空気環境の選択につながる空気環境改善事業「みんなエアー」を開始。今後もソーシャル・アップデート・カンパニーとして、独自のブロックチェーン技術を基盤とした「顔の見えるライフスタイル」の実現を目指す。<https://minden.co.jp/>